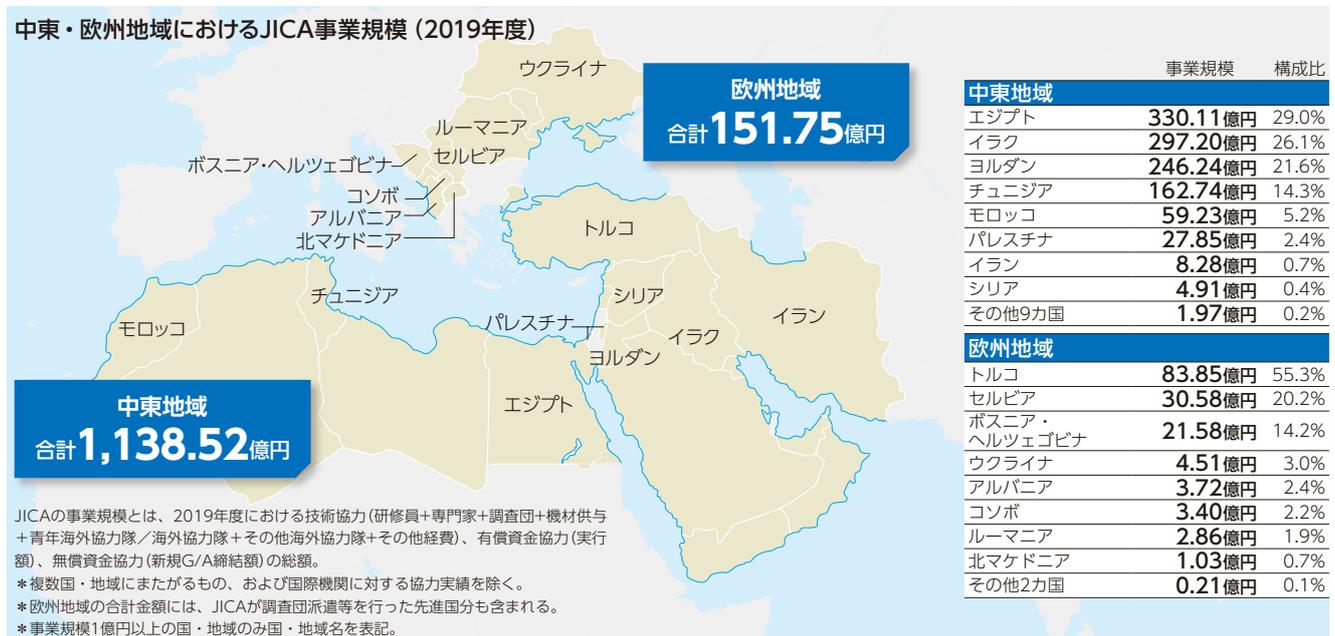


中東・欧州

人材育成を通じた地域の安定化と「質の高い成長」の実現に向けて



地域の課題

中東地域では「アラブの春」以降、多くの国で不安定な状況が継続しています。シリア危機などに起因する難民問題や、過激派組織「イスラム国(ISIL)」から解放された地域などに対する中長期的な協力が求められています。また、欧州地域では、民間セクター開発支援、欧州連合(EU)加盟に向けた取り組みへの支援、行政改革やガバナンス強化に関する支援が必要とされています。

このほかにも、両地域は感染症対策をはじめ、強靱な社会システムの構築や持続的成長の実現など、共通の課題を多く抱えています。両地域の平和と安定は、国際社会、そして日本の安定と繁栄に直結しています。

JICAの取り組み

1. 地域の安定化と人間の安全保障に向けて

JICAはシリア危機への対応として、2017年度にシリア人留学生の日本の大学院での受入れを開始し、2019年度は12名が来日、累計の受入人数は51名となりました。また、ヨルダンで生活するシリア難民への就労支援を通して、難民の社会参加を促進しました。世界最多のシリア難民受入ホスト国であるトルコでは、円借款事業による上下水道・廃棄物処理インフラの整備が進んでおり、一部の施設が完成しています。

パレスチナでは、難民キャンプにおいて、住民参加型のキャンプ改善プロセスの導入に貢献しました【→ P.37事例を参照ください】。パレスチナ解放機構難民問題局長を日本に招き、公開セミナーを開催するなど、難民問題への日本国内の理解促進も図りました。また、無償資金協力を通じて、ガザ地区も対象に医療機材を供与していきます。

イラクでは円借款事業により、度重なる戦争や国際社会からの経済制裁により疲弊した電力・上下水道のインフラなど、民生やビジネスに不可欠な分野の復旧・開発を推進しています。さらに、ISILから解放された北西部地域のインフラ再建に向けた円借款案件の形成に取り組みました。一方、内戦が続くイエメンに対しては、本邦研修や第三国研修による能力開発への支援とともに、政府関係者を日本に招へいし、第2次世界大戦後の日本の復興・開発の経験や知見を伝え、より効果的な協力に向けて議論しました。

西バルカン地域では、日本政府の「西バルカン協力イニシアティブ」の下で協力を推進するとともに、新興ドナーのブルガリアとの対西バルカン向けの連携案件(防災、中小企業支援など)を形成・実施したほか、ルーマニアの援助機関とも連携の強化に向けた意見交換を実施しました。

また、2019年8月に横浜で開催された第7回アフリカ開発会議(TICAD7)の機会をとらえ、エジプトと日本政府の間でアフリカ向けの三角協力に関する協力覚書を締

結しました。エジプト・日本科学技術大学(E-JUST)への150名のアフリカ諸国からの留学生受入についても確認しました。

2. 「質の高い成長」に向けて

ガバナンス支援、日本の技術・知見を活用したインフラ整備、環境、教育・保健、中小企業などの分野での支援を通じた「質の高い成長」を推進しています【→ 下事例を参照ください】。

運輸・交通分野では、モロッコから港湾政策の政府関係者を日本に招へいし、港湾関連技術の紹介や、日本の官民の港湾関係者との対話促進を図りました。

ガバナンス強化では、ウクライナで財政再建や金融制度改善を支援する財務大臣アドバイザーの活動の一環として前日銀総裁を講師にしたセミナーを開催しました。産業振興や投資促進に向けては、チュニジアにおいて17カ国の関係者とカイゼン方式に関する国際セミナーを開催。また、西バルカン諸国などに対し、積極的に中小企業支援に関する協力を推進しました。

教育分野では、「エジプト・日本教育パートナーシップ」に基づき、日本へのエジプト人留学生受入(2019年度は239名)や、小学校での日直・学級会などの特別活動をはじめとした日本式教育の導入に向けた円借款の供与や技術協力などを実施。その結果、「エジプト・日本学校(EJS)」が2019年度に6校(累計41校)開校し、日本式



パレスチナ：人々に根付く母子手帳【写真提供：阿部雄介】

教育の普及を推進しています。

今後も引き続き以下の取り組みを進めていきます。

- 人間の安全保障のため、地域の安定化、特に中長期的な対応が求められる難民問題に対し、国際機関などさまざまなパートナーとも連携して難民と難民受入ホスト国に対する支援に継続して取り組みます。
- 持続的な経済成長に向け、日本の技術・知見も生かしたインフラ整備、教育・保健、ガバナンス強化、中小企業支援などを通じた「質の高い成長」を支援します。
- 日本式教育の導入も念頭に置き、留学、技術協力、資金協力などのスキームを活用した包括的な人材育成支援に取り組みます。

トルコ ポスボラス海峡横断地下鉄整備事業

全線開通で利便性向上——運行の安全確保などに留意した研修を続行



東京メトロ総合研修センターでトルコ人研修員が安全運行研修を受講

本事業の下、2013年10月に約13.6kmのポスボラス海峡横断地下鉄区間が開通し、海峡を挟みアジア側と欧州側に分かれるイスタンブールが地下鉄でつながりました。

海峡横断地下鉄区間の開通後、東西の延線63km区間の設備改良工事などが進められ、2019年3月12日に全線が開通。当日は、エルドアン大統領ほか、多くの関係者が参列し、開通式典が行われました。

全線開通により、アンカラなどへ続く高速鉄道と海峡横断区間が接続され、

アジア-欧州間の切れ目のない電車移動が可能になりました。利便性の向上に伴い、1日当たりの平均乗客数は海峡横断区間開通時の約6万人から、約42万人にまで増加しました。

JICAは国土交通省や鉄道会社の協力の下、運行開始前には安全管理や人材育成の方法、鉄道経営に関する組織・財務改革などの研修を、運行開始後には地震発生時の緊急対応や混雑時の運行など、現場の実務を踏まえた研修を実施しています。